～つながる県南　広がる実践　すべては子どもたちのために～

県南教育事務所
教　育　情　報

# 南風 NANPU

令和４年９月 14 日（水）
Ｎｏ．３　【通巻第 186 号】
文責：教務課指導班

## 特別支援教育の推進　「つなぐ」「いかす」「支える」

岩手県の特別支援教育の方向性を示す「いわて特別支援教育推進プラン（2019～2023）」は、これまでの推進プランの基本理念である「共に学び、共に育つ教育」を継承しつつ、「つなぐ」、「いかす」、「支える」の３つのキーワードごとの施策の方向性と具体的施策により構成されています。この理念に基づき、県南教育事務所では、「支援を必要とする児童生徒一人一人に対する教育的ニーズにきめ細かく応える支援体制を整備し、個々の力を伸ばしていく」ことを目標として、教育的ニーズに応じた指導・支援体制の充実のため、以下の研修会を実施しました。

### 特別支援教育担当ステップアップ研修講座Ⅰ

東山地域交流センター
（R4.6.6）

今年度、初めて特別支援教育担当になった先生方を対象に研修を行いました。（３６名参加）初めに奥州市立衣川小学校の「知的障がい学級」の授業をＶＴＲで視聴しました。

視聴を通して、目標を明確にもたせたり、一人一人の実態に応じてきめ細やかに支援したりすることの大切さについて学ぶことができました。グループ協議では担当の障がい種別に分かれ、先生方の悩みについて支援学校等の先生方から助言をいただき、明日からの指導に生かせる様々な支援方法について理解を深めることができました。

【単元名「アルバムをつくろう」（生活単元）】
一人一台端末を使いながら、一人一人のめあてに向かい、アルバムづくりを行いました。

**【授業の感想】**

○子どもたちと目標を共有して学習を行うことで、身に付けたい資質・能力を子ども自身が自覚し、意欲的に学習に向かうことができていました。
○声に出して評価を行うだけではなく、板書に花丸を記すなど、視覚的にも評価を行うことによって、子どもたちは自らのがんばりを認めることができ、次の学習への意欲につながると感じました。
○TT を用いて、個に応じたきめ細かな指導を行うことによって、一人一人のニーズに応えることができ、確実に子どもたちの力が身に付いていると感じました。
○一人一台端末の音声入力を用いた指導の工夫が、文字の入力を行うことが困難な子どもにとって、非常に有効に働いていると感じました。
○子どもたちの意欲が最後まで続き、集中して学習に向かう姿が印象的でした。

**講義『障がいの基本的理解と「個別の教育支援計画」の活用について』**
（三浦由紀子　特別支援教育エリアコーディネーター）

○障がいとは、個人因子のみではなく環境との相互作用で引き起こされるものである。
○『障がいを「もつ」』という考え方から『障がいが「ある」』という考え方へ。
その人と周りの環境の間に障がいがあるという考え方が大切である。
○「個別の教育支援計画」は、関係機関（教育・医療・福祉・労働）等が連携して一人一人のニーズに応じた支援を、幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して行うことを目的としている。個別の指導計画の内容に引き継ぎシート（フェイスシート）を含めたものを個別の教育支援計画とすることが重要である。

**【研修全体を通して（参会者の感想より）】**

○「障がい」や「支援」に対する考え方が変わりました。「個別の教育支援計画」の具体的な作成の仕方がよく分かりました。
○「褒める」ということは、認めたり、見ているというメッセージを伝えたりすることにもなることが分かりました。
○自分の悩みについて、講師の先生方に的確に助言していただき、大変参考になりました。
○他校の先生方と指導の仕方や悩みなどを共有することができ、明日からの励みになりました。

児童生徒理解に基づいた適切な指導や必要な支援の充実、魅力ある学級づくりのための資料です。ぜひご活用ください。

● 特別支援学級経営の手引き
http://www1.iwate-ed.jp/tantou/tokusi/tebiki01.html

● 通級指導教室経営の手引き
http://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/027/150/tuukyuutebiki.pdf

● 共に学び、共に生きるいわて
http://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/027/151/tomonimanabitomoniikiruiwate.pdf